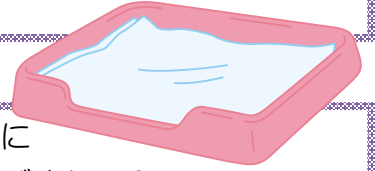


犬のしつけ ~トイレのしつけ~

犬にとってベッド以外はすべてがトイレ

野生の狼は、外敵から狙われることを避けるため、巣穴には自分のにおいが残らないように、排尿・排便は巣穴の外で行います。犬もこの習性が残っているため、自分のベッドは汚しません。犬にとっては自分のベッド以外はすべてがトイレということになります。

決められた場所で排尿・排便を覚えさせるということになるので、始め犬が失敗しても責めることはできません。しかし、きちんとしつければ犬は必ずトイレの場所を理解してくれるので、根気強く続けることが大切です。



子犬のおしっこは頻繁です。定期的にトイレに連れていきましょう。

トイレのしつけは子犬が家に来た日からはじめましょう。子犬のうちは頻繁に排泄するので、最初は定期的（2～3時間おき）にトイレに連れて行ってあげましょう。

その他

- ①寝て起きたあと
- ②食事のあと
- ③水を飲んだあと
- ④遊んだあと（運動したあと）
- ⑤においをかぎ出したとき

も、おしっこのタイミングなので、トイレに連れていきましょう。

◆トイレでの排泄が終わったら、『グッド、グッド』や『よし、よし』と優しく声をかけ、なでてあげましょう。

失敗しても絶対に叱ったり、大騒ぎしてはいけません！！

トイレは、ほめて覚えさせましょう。犬が失敗しても、決して叱ったり、大騒ぎしないようにしましょう。大騒ぎすると、かまってもらえたと勘違いし、むしろ飼い主に喜ばれると思って、トイレ以外の場所で排泄をするようになります。また、叱られると、犬は排泄自体が悪いことだと覚え、飼い主に隠れて排泄するようになることもあります。

トイレ失敗時の対処法

*子犬を別の部屋やケージなどに入れてから、**静かに**片付けましょう。

*『きゃ～。おしっこ、おしっこ！』と大騒ぎする。

*犬を叱る。



声もかけてくれないし、遊んでもくれない。つまらないから、もうやらないぞ！

いっぱい声をかけてかまってくれる。これからもどんどんやろう！



おしっこするのは悪いことなんだ。我慢できないときは、誰も見ていないところでしよう！

食糞について

犬がウンチを食べること自体は異常な行為ではなく、野生のころは巣穴を汚さないように母犬が子犬のウンチを食べる習慣もありました。しかし、人と暮らすうえではやめさせたい行為です。食糞する理由には、おなかがすいている、ひまつぶし、食べてみたらおいしかった、目の前にウンチがあるのが嫌でウンチを消したいなどがあります。このほかに栄養不足でも食糞を行うことがあります。

⇒食糞をさせないために・・・

◆ウンチはすぐに片付け、犬をほめてあげましょう。→ウンチを食べなければ、ほめてもらえるということを覚えさせましょう。※片付けるときに、焦って片付けると、犬はウンチを取られないように食べてしまうこともあります。ウンチを片付けるときは落ち着いておこないましょう。

◆ウンチを食べても叱ったり、大騒ぎしないようにしましょう。→大騒ぎしたり、中途半端に叱ると、犬はかまってもらったと勘違いして、クセになってしまうことがあります。☆留守番などでウンチをすぐに片付けられない場合は、外出する前にウンチをさせたり、夢中になれるおもちゃやかじるものを用意しておくなど、食糞が起りにくい環境にしてあげましょう。

犬のしつけ ～留守番のさせ方～



問題行動の原因は飼い主と離れる不安感

犬は群れで生活する動物のため、ひとりで留守番するのが苦手です。

もしかしたら仲間が帰ってこないのではないかと、取り残された不安感や怖さでいっぱいになります。それでも、たいていの犬は、不安を抱えながらもおとなしく飼い主の帰りを待っていますが、不安に敏感な犬は、飼い主がいなくなると、いつまでも吠え続けたり、家具やクッション、ゴミ袋などを壊したり、おもらしをしてしまうことがあります。なかには、食欲不振になったり、ストレスで足がただれるまでなめ続けてしまう犬もいます。これらの行動は、犬の行動学では「分離不安」と呼ばれます。

留守番に慣れさせるために…

◆ひとりでいることが平気な犬に育てましょう。

十分に運動させる

散歩、ボール遊びなどで、犬のストレスを発散させましょう。



撫ですぎは注意

いつも飼い主が撫でていると、留守中、犬は寂しさや不安を感じてしまいます。対策として、意識して触らない時間をつくってみましょう。犬がひとりでいる時間を作りましょう。

外出前や帰宅後に犬をかまわないように

外出前に「行ってくるね。いい子にしていね。」などと声を掛けたり、帰宅時に「ただいま。ごめんね。」などとなでたりして犬をかまう飼い主さんがいると思います。しかし、留守中の犬は飼い主にかまってもらった後には取り残されると思い、また、この状態がくるのかとイライラしたり、不安になります。このイライラや不安がストレスとなります。

留守番のさせ方

※ 子犬が来てから1週間程度は、できれば家族の誰かが家にいるようにしましょう。これは、トイレのしつけの面からも重要です。

①. 台所で仕事をする時、人間がトイレに行く時などに犬にひとりでいることに慣れさせます。

＊まずは犬から離れ、犬が静かにしていたらほめてあげます。もし離れた時に犬が吠え始めたら、おさまるまで無視します。

②. 問題なく過ごせるようになったら、1分、5分、10分で戻るなど、犬に帰る時間を予測させないように外出するようにしましょう。

＊買い物に行く時は、遊ぶ、ご飯をあげるなど犬が満足することをして、排泄を確認してから、犬を見ないで消えるようにいなくなきましょう。帰宅しても、5分程度(犬が落ち着くまで)は、犬をかまわずに、犬を見ても声を掛けないようにしましょう。

ポイント

◆おなかがすいていない、排泄が終わっている、十分に運動して休みたいという気持ちになっていることが大切です。

○ 何かかじるものを与えるのもよいでしょう。

○ 外の音が気になる犬には、ラジオをかけるなどして工夫しましょう。

○ 外出前や帰宅後は犬をしばらく無視しましょう。

○ 家のカギをいつも持ち歩くのもよいでしょう。

→ゴミ捨てや新聞を取りに行くときにもカギを閉め、すぐに帰ってくると思わせましょう。

【注意】 かじるものを与えた場合、帰ったら取りあげておきましょう。取りあげることにより、また与えられたときに熱中してかじるようになります。